

第2学年 算数科学習指導案

日 時 平成30年 10月5日(金) 第5校時
児 童 2年1組 男子9名 女子14名 計23名
指導者 ****

1 単元名 ひっ算のしかたを考えよう

2 単元について

(1) 児童について

—省略—

(2) 指導にあたって

本単元の指導にあたっては、既習の筆算を基に、百の位への繰り上がりのある2位数の加法、及びその逆の百の位からの繰り下がりのある減法の筆算の仕方を考え出す過程を大切にしていく。十進位取り記数法についての理解を十分に図り、筆算の仕組みを捉えられるようにしていく。

「話す・聞く、学び合う」活動については、「まず」「次に」「そして」のような順序を表す言葉を用いることで、筋道立てて筆算の仕方を説明させたり、自分の考えと比べながら聞いたりさせる。お互いの考えを理解するとともに、共通点を見つけさせたい。

本時の指導では、児童が、十の位から繰り下げられない場合、どこからどのように繰り下げればよいか迷うと予想される。そこで、自力解決後の全体学びで数カードの操作を行い、百の位から順に繰り下げたことに気付かせ、ペア学習で全員が正しく操作できるようにする。その後の全体学びでは、数カード操作と筆算を関連付けながら共通性を見つけ、波及的繰り下がり考え方を説明できるようにさせたい。

3 単元の目標

◎既習の筆算を基に、2位数の加法及びその逆の減法の筆算の仕方について理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いる能力を伸ばす。

◎筆算形式による3位数+1、2位数(百の位への繰り上がりなし)、3位数-1、2位数(百の位からの繰り下がりなし)の計算の仕方について理解する。

[関心・意欲・態度]

○2、3位数の加減の筆算のよさに気づき、生活や学習に活用しようとする。

[数学的な考え方]

○既習の筆算を基に、2位数の加法及びその逆の減法の筆算の仕方を考え表現することができる。

[技能]

○2位数の加法及びその逆の減法の計算について、筆算の手順を基に、確実に計算することができる。

[知識・理解]

○2位数の加法及びその逆の減法の計算が、1位数などの基本的な計算を基にできることを知り、それらの筆算の仕方について理解する。

4 本時の指導

(1) 目標

3位数－1、2位数（十、百の位からの波及的繰り下がりあり）の筆算の仕方を考え、説明することができる。

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

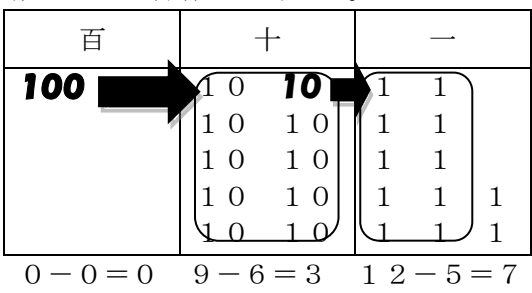
評価規準	B おおむね満足できる	C 支援を要する児童への手立て
【考】既習を基に、3位数－1、2位数(百の位からの波及的繰り下がりあり)の筆算の仕方を考え、説明している。	はじめに百の位から十の位に1繰り下げ、次に十の位から一の位に1繰り下げて計算すればよいと考え、数カードを操作し、筆算の仕方を説明することができる。	友達の考えを聞きながら、はじめに百の位から十の位へ繰り下げればよいことに気付かせ、位取り表と数カードを使って考えさせる。

(3) 本時の展開（6 / 1 1時間） 研究テーマとの関連＝☆

段階	学習活動	指導上の手立て（評価）
つかむ (5分)	<p>1 問題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> $102 - 65$ のひっ算のしかたを考えましょう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 既習の筆算との違いを明らかにする。 ○ひかれる数の十の位が0になっている。 ○一の位がひけないときは、十の位から繰り下げたけど、今日の問題は十の位が0になっていて、繰り下げることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の筆算を提示し、本時の筆算との違いに気付かせる。本時はひかれる数の十の位が0なので、十の位から繰り下げることができないことを確認する。 102と65は、だいたい何十か言わせ、答えを予想させる。 百の位に1があるから、百の位から繰り下げられそうだという見通しをもたせる。
	<p>2 課題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> 十のくらいからくり下げられないときのひっさんのしかたを考えよう。 </div> <p>3 見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> 答えを予想する。 ○だいたい30か40です。 解き方を見通す。 ○百の位からかりてくると計算できそう。 	
考える (30分)	<p>4 自力解決</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆算の仕方を考える。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> $\begin{array}{r} 102 \\ - 65 \\ \hline 37 \end{array}$ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> $\begin{array}{r} 102 \\ - 65 \\ \hline 47 \end{array}$ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> $\begin{array}{r} 102 \\ - 65 \\ \hline 43 \end{array}$ </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 全員、まず筆算で考え、時間があったら数カードで確かめるように伝える。 机間指導により児童の考えを把握する。 <p>☆数カード操作を行う必然性をもたせる。</p>
	<p>5 学び合い</p> <p>(1) 全体学び</p> <ul style="list-style-type: none"> 自力解決で児童が取り組んだ筆算を比べ、数カードで確かめる。 	

考える (30分)

○数カードを操作して考える。



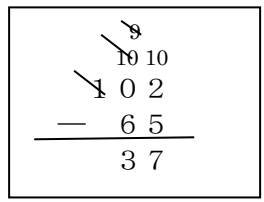
○言葉で考える。

まず、一の位を計算します。
 $2 - 5$ はできないから十の位から1繰り下げたいけど十の位が0で繰り下げられないから百の位から十の位に1繰り下げます。十の位は10になるから、十の位から一の位に1繰り下げます。
 $12 - 5 = 7$
 次に、十の位を計算します。一の位に1繰り下げたから、 $9 - 6 = 3$
 そして、百の位を計算します。十の位に1繰り下げたから、 $0 - 0 = 0$
 だから答えは、37。

(2) ペア学習

(3) 全体学び

- ・正しい筆算の書き方を知る。



- ・数カード操作と筆算の共通点について確認する。
- 百の位から十の位に1繰り下げ、十の位から一の位に1繰り下げて計算している。
- 繰り下げたので百の位と十の位は1減る。

6 まとめ

百のくらいからじゅんばんにくり下げてけいさんする。

☆十の位から繰り下げられないとき、どのように数カードを動かしたか、操作させたり、繰り返し言わせたりする。

- ・「まず」「次に」「そして」の言葉を使い、位ごとに説明させる。

☆全体で確認した数カード操作をペアでもう一度確かめ合い、正しく操作できるか確認する。

- ・補助数字の役割と書き方を知らせ、計算の仕方を言わせながら筆算をノートに書かせる。

☆数カード操作と結び付けて筆算の仕方を確認する。

- ・百の位から十の位へ、十の位から一の位へ、上の位から順番に1繰り下げたことを確認する。
- ・十の位が、なぜ $9 - 6$ になったのかを確認する。

- ・みんなでまとめる。

生 か す (10 分)	<p>7 評価問題</p> <p>① $103-47$ ② $105-8$</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・穴埋めプリントに計算の仕方を書かせる。 ・机間指導により丸付けをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>《評価》【考】既習を基に、3位数-1、2位数(百の位からの波及的繰り下がりあり)の筆算の仕方を考え、説明している。(ノート・発表)</p> </div>
	<p>8 振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習してわかったことと友達から学んだことを書かせる。 ・数名に発表させる。